



外盤
案内

I M P O R T D I S C

Ⓒの表示のあるCD、DVDは、現代ギター社通販サービス及びGGショップで取扱い中、または取扱い予定の商品です。



Divertissements ビアンコ

Divertissements
Gabriel Bianco (G), Michaela Hrabankova*
(Ob)
AD VITAM Records AV 170115
フランス (ドイツ) 盤

●オーボエは木管楽器としては結構古い楽器であり、最初に近代の管弦楽に取り入れられた楽器でもある。古典期にはすでにギターとのデュオによるオリジナルの作品も残されている。このアルバムは古典期以降にウィーンで生み出されたこの珍しい組み合わせの作品を収録している。近代ハンガリーのギタリスト・作曲家であるコヴァチは1975年からはザルツブルグで教授活動も行っていた（LP時代の録音もある）。この四楽章からなる作品ではどこか物悲しい音色と東欧の複合リズムが効果的に使われ、民族風な響きも感じられる。ピルスは20世紀の中頃にウィーンで活動した作曲家、指揮者、音楽教師でありウィーン国立歌劇場では合唱の指揮を行っていた。この作品も当時の傾向である後期ロマン派の美的感覚が溢れており、最近見直されてきているレーバイなどと同じような傾向を持っている。ビアンコとフラヴァンコヴァの息の合った表現がこれらの作品の美を巧く導き出している。

[オーボエとギターのためのソナチネ・イ長調* (ピルス)、劇的幻想曲 Op.31 (旅立ち)、山人の歌 Op.34* (コスト)、オーボエとギターのためのソナタ第2番ハ長調* (レーバイ)、オーボエとギターのためのソナチネ* (コヴァチ)]